



“未来をになう子どもたちに 仲間とつくりよう豊かな実践を”

# 全国児童養護問題研究会 全国大会 第53回 東京大会

大会テーマ

社会的養護の勇氣ある変革を  
～権利を保障する魅力ある施設・ホーム・拠点づくり～

主催：全国児童養護問題研究会

開催期間：2026年6月20日(土)・21日(日)  
※ 6月19日(金)プレ企画

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター内

大会委員長：武藤 素明(全国児童養護問題研究会 会長)  
現地実行委員長：宮田 浩明(社会福祉法人セント・ジョセフ会 理事長)  
現地副実行委員長：早川 悟司(子供の家)  
大会事務局長：高橋 朝子(品川景德学園)

## 第53回 東京大会へのお誘い

子どもを取り巻く状況は、不登校・引きこもり、青少年の自殺、児童虐待・不適切養育等々の増加傾向の中で依然厳しい状況下にあります。これまで全国児童養護問題研究会(養問研)は、1972年以來、養育者や職員の権利保障も含む子どもの最善の利益や権利保障の追求をめざし、研究と実践、そして交流やアクションを展開してきました。

今年の第53回全国大会は、大会テーマを昨年度に引き続き「社会的養護の勇氣ある変革を」とし、真に子どもを主人公とした養護実践を追求するために必要な改善や改革課題について検討し、日々の児童養護実践の向上につなげる大会としたいと思います。

今年は、昨年度に引き続き東京(代々木)開催となりますので、会員の皆様や会員でない方もお誘いあわせの上、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

全国児童養護問題研究会 会長 武藤 素明

## 【宿泊施設・交通】

本大会では宿泊施設の受付は行っておりません。  
宿泊参加される方は、各自でお早めに宿泊施設の予約をお願いいたします。

### ■会場までのアクセス

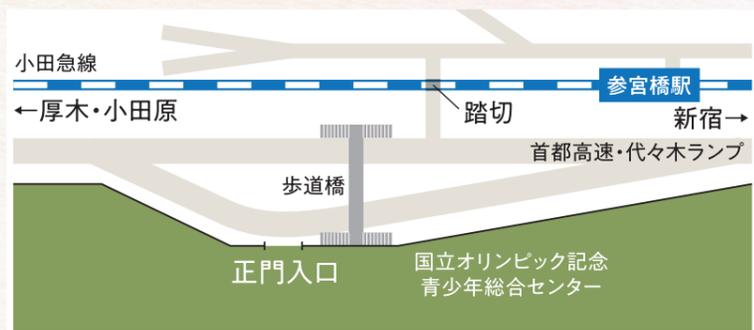
国立オリンピック記念青少年総合センター  
東京都渋谷区代々木神園町3番1号  
Tel:03-3469-2525

### ■東京駅より

JR中央線 新宿駅乗り換え⇒  
小田急線(普通電車)参宮橋駅下車徒歩8分

### ■地下鉄

千代田線 代々木公園駅下車徒歩10分



### ■お問い合わせ

全国児童養護問題研究会 第53回全国大会 現地実行委員会事務局  
児童養護施設 品川景德学園

E-mail:youmonken.tokyotakai@gmail.com(お問い合わせはメールをお願いいたします)

■全国児童養護問題研究会ホームページ <http://youmonken.org/>



★大会スケジュール 6/20(土)総会に参加しない方は、10:30～開会まで受付いたします

		12:30 13:00				16:00			
6/19 (金)		受付	プレ企画 「大きな家」上映						
		10:30 11:00	11:45	12:30 13:00	14:00	15:30 16:00	18:00	19:00	21:00
6/20 (土)		受付開始	総会	開会	基調報告	記念シンポジウム	児童福祉講座		夕食交流会
		8:30 9:00		12:00	13:00	16:00 16:20 16:50			
6/21 (日)	受付	分科会			分科会			閉会	

【プレ企画】6月19日(金) 受付 12:30～ センター棟 402

■映画「大きな家」上映会 13:00～16:00

「大きな家」公式HP

- ◇ドキュメンタリー映画「大きな家」上映(監督・編集 竹林亮氏 企画・プロデュース 齊藤工氏)
- ◇撮影秘話に関するトークセッション(予定)



【第1日目】6月20日(土) 受付 10:30～(開会まで随時受付) カルチャー棟 小ホール

■総会 11:00～11:45

■総会 12:30～13:00

- ◇養問研会長挨拶 ◇現地実行委員長挨拶 ◇来賓挨拶 ◇書籍紹介 ◇実践指針紹介 ◇全国事務局案内

■基調報告 13:00～14:00

報告:全国児童養護問題研究会 調査研究部長 片岡 志保

■記念シンポジウム 14:00～15:30

テーマ『社会的養護の勇氣ある変革を!』

都道府県社会的養育推進計画は、昨年度より後期5か年へと移行しています。2024年施行の改正児童福祉法では、施設等における地域の子ども家庭支援を支える事業や自立支援に関わる事業の大幅な拡充が盛り込まれました。これらへ積極的に取り組む施設と、一步を踏み出せていない施設で格差が拡大していくことも懸念されています。

本シンポジウムではこども家庭庁にて制度設計に携った立場、先駆的实践を進める立場、社会的養護経験者として社会発信を続ける立場から、変革に向けた道筋について提起していただきます。

- 《シンポジスト》
- 社会的養育総合支援センター 一陽 副施設長 (元・こども家庭庁支援局家庭福祉課 社会的養護専門官) 霜 大輝氏
  - 児童養護施設 ゆうりん 施設長 小尾 康友氏
  - ボランティア団体 ACHAプロジェクト 代表 山本 昌子氏

《コーディネーター》 全国児童養護問題研究会 会長 児童養護施設 二葉学園 統括施設長 武藤 素明

■児童福祉講座 16:00～18:00

A『子どもの生活づくり～児童養護への招待～』

「子どもの権利の基盤となる『子ども版実践指針』の改訂に向けて」

昨年の東京大会では『児童養護の実践指針(第5版)』を正式に発表、各施設等における活用に向けて頒布をしています。そして現在、養問研では『子ども版実践指針』の改訂に着手しています。社会的養護のもとで生活する子ども等が生活の主体、権利の主体であるための基盤整備を続けます。

愛知県:全国児童養護問題研究会 副会長 名古屋文化キンダーホルト 施設長 岩田 正人氏

B『豊かな人間関係づくり』

「豊かな人間関係づくり」

ピッコラーレは「にんしん」にまつわる全ての「困った」「どうしよう」に寄り添うことをミッションに活動をしています。HOMEを持たない妊婦が、安心して安全に休むことができる時間と場所を提供しているのが「びさら」です。「びさら」での生活を通して、彼女たちが抱えている困難を一つ一つ手放していけるように、そしていつか自分のことを自分で決められるように、「あなたはほしい?」と問いかけ、支えます。安心して過ごせる居場所、人や社会とつながる力を育む実践の報告を通して、誰もが孤立することなく自由に幸せに生きることができる社会の実現について、皆さんと一緒に考えたいと思います。

東京都:認定NPO法人ピッコラーレ びさら 施設長 松本 佳子氏

C『援助者としてのそだちあい』

「児童養護施設の労働問題 一子ども・職員双方の人権保障のために」

講師は児童養護施設の職員時代に直面した労働争議を契機に、労働問題に関する研究に取り組んできました。2025年に刊行した表題の単著はその集大成です。養問研も職員の自己犠牲的美徳とされてきた時代から「子ども・職員双方の人権保障」を掲げてきましたが、これは職員の確保・育成が困難になっているすべての施設で必須の課題です。本講座では参加者同士の交流や著作の概要を踏まえ、施設の労働問題と働き続けるための条件について考えます。

愛知県:日本福祉大学 教授・放送大学 客員教授 堀場 純矢氏

D『子ども・若者のケアニーズに応じた支援』

「乳児院におけるライフストーリーワーク(LSW)の取り組み」

子どもの知る権利を保障し、子どもが自分らしく生きていく基盤を作っていくために、LSWに取り組む施設が増えていきます。乳児院でも、子どもはまだ幼くても、乳児院の段階からできることを考えながら取り組み始めています。乳児院におけるLSWの考え方や取り組みの例を紹介しながら、子どもの育ちを繋いでいくことについて皆さんと共に考えたいと思います。

東京都:愛恵会乳児院 心理療法担当職員/専門職リーダー 麻見 映理子氏

E『青年期の自立支援』

「若者が安心して生き抜いていける社会をつくる」

サンカクシャは、親や身近な大人を頼れない15～25歳くらいまでの若者が孤立せず、自立にむかえるよう、社会サンカクを応援する団体です。生きる意欲、何かに取り組む意欲を失ってしまった若者へ丁寧に伴走し、社会との繋がりを得て、自分らしく生きていけるようサポートをしています。また、地域や企業の大人もこの活動にサンカクし、若者も大人も年齢や立場、肩書きを超えて、支え合うつながりを作っていきます。

東京都:特定非営利活動法人 サンカクシャ 代表理事 荒井 佑介氏

F『これからの家庭(的)養護』

「家庭環境に悩む子どもたちが『価値ある自分を信じられる』ために」

ウィーズは2009年から家庭環境に悩む子ども・大人の支援を行ってきました。その中で、家庭環境の変化がこどもの将来に大きな影響を与えることがわかりました。こども時代をこどもらしく過ごせないことの反動は軽視できません。「相談」「居場所」「親子交流」「学び」「支援者育成」等の実践は社会的養護関係者にも学びが大きいと考えています。

東京都:NPO法人ウィーズ 代表 光本 歩氏

G『多機関連携と多職種連携』

「地域における児童相談所の新たな役割」

2017施行の改正児童福祉法において、中核市・特別区の児童相談所設置が可能になりました。東京の特別区(23区)では江戸川区をはじめ3区が先行して児童相談所を開設し、現在は10区に設置されています(東京都は12か所)。都道府県による児童相談所が虐待の事後対応に追われる中、予防を含めた基礎自治体の児童相談所の実践から今後を展望します。

東京都:江戸川区児童相談所 はあとポート 所長 高橋 章友氏

H『今後の社会的養護のあり方』

「児童養護施設・乳児院の現代化 -「保護する施設」から「子どもの社会的養育拠点」へ-」

1998年改正児童福祉法を契機に、家庭養育優先の社会的養育へ転換が示されました。小規模化・地域分散化、高機能化・多機能化を進め、児童養護施設は治療と生活の拠点、乳児院は養育と家庭移行の専門機関へ再編しています。一方でケアの高度化に伴う人材不足や職員負担増が課題で、連携強化と支援体制整備が求められています。

東京都:東京都 社会福祉協議会 乳児部会 制度政策推進委員長 黒田 邦夫氏

■夕食交流会 19:00～21:00 国際交流棟 レセプションホール

美味しく食事をしながら、参加者のみなさまの交流を深めましょう。ぜひご参加ください。夕食交流会ゲストの林めり氏(料理人/一般社団法人いまからつくる代表)による一品もお楽しみいただけます。

■分科会 午前 9:00~12:00 午後 13:00~16:00

第1分科会 『子どもの生活づくり』

**午前:「アウトドア体験を通じて自尊心を育む」**  
報告施設では30年以上前から、アウトドアを舞台にした冒険プログラムに注力してきました。近年ではその経験を活かし、施設で暮らす子どもたちと職員との信頼関係構築に役立てています。さらに活動の場を海外にも広げ、非認知能力の向上を図る取り組みを通じて、子どもたちの自己肯定感や自尊感情を育てています。  
＜報告者＞東京都:星美ホーム 副施設長 立入 聡 氏

**午後:「現場職員と建築家の協働でつくる児童養護施設の建替」**  
報告施設は昨年より、本園の建替と、ユニット化されたグループホーム(分園型小規模グループケア)を新築しています。現場職員と建築家が、建物の配置や間取りなどの検討内容を発表し、ソフト/養育・支援と、ハード/建築の相乗効果について、皆さんとともに考えます。  
＜報告者＞神奈川県:唐池学園 建替検討プロジェクトチーム 安部 慎吾 氏  
東京都:上原和建築研究所 建築家・一級建築士 上原 和 氏

第2分科会 『豊かな人間関係づくり』

**午前・午後共通:「こころをケアする対話・オープンダイアログ」**  
1980年代、フィンランド北部の病院で、精神に困難を抱えた人たちと対話する試みが始まりました。それはのちに「オープンダイアログ」と名付けられ、今では世界各地にその考え方が広がっています。薬ではなく対話を通じて、精神を病む人たちの8割が回復しているともいわれます。日本人医師として初めてオープンダイアログの国際トレーナー資格を得た一人である森川氏から、講義とワークを通じて学びます。可能な限り、午前・午後を通じたご参加をお勧めします。  
＜報告者＞東京都:ゆうりんクリニック 森川 すいめい 氏

第3分科会 『援助者としてのそだちあい』

**午前:「児童養護施設の新たな機能と地域における役割」**  
昨年、施設を分割・改築した東京サレジオ学園と、同じく昨年、新たにオープンした実籾パークサイドハウス。どちらも施設の高機能化・多機能化、地域とのかかわりのあり方を模索しています。両施設の個性的な実践を通じて、今後の施設運営のあり方を考えあいます。  
＜報告者＞東京都:東京サレジオ学園 学園長 田村 寛 氏  
千葉県:実籾パークサイドハウス 副施設長 久古 浩孝 氏

**午後:「家庭的養育の実践と当事者とともに創る支援のかたち」**  
児童養護施設職員としての経験と里親としての現在の実践を背景に、社会的養護経験者と共に支援の現場を創っています。子ども中心の視点から、家庭養育の意義とこれからの支援のあり方を考えます。  
＜報告者＞茨城県:ファミリーホームいちのいえ 代表 いばらき県北里親家庭支援センター 代表 関 貴教 氏

第4分科会 『子ども・若者のケアニーズに応じた支援』

**午前:「“ケア”を謳わないケア —児童養護施設・心理職の視点から」**  
20数年にわたり児童養護施設の現場で子どもたちと向き合ってきた講師が、「逆境体験」をもつ子どもの育ちとケアについて、その考えを丁寧にまとめました。  
虐待を受けた子どもたちを、私たちはどのように支えればよいのか。そもそも「ケア」とは何なのか。教条主義に陥らず、現場に根ざした思考と丁寧な理論的検証を重ねてきました。子育てや支援の困難さにどう向き合い、どう乗り越えていくのかを、ともに考える時間になります。  
＜報告者＞神奈川県:旭児童ホーム 心理療法担当職員 内海 新祐 氏

**午後:「児童心理治療施設の実践に学ぶ高機能化のあり方と課題」**  
施設全体が治療の場であり、施設内で行っている全ての活動が治療であるという「総合環境療法」の考え方のもと、生活・学校・心理・医療・児童相談所などの関係機関が協働して子どもに関わっています。児童自立生活援助事業等、自立支援にも積極的に取り組んでいます。  
＜報告者＞埼玉県:こどもの心のケアハウス 嵐山学園 施設長/医師 早川 洋 氏

第5分科会 『青年期の自立支援』

**午前:「児童自立生活援助事業の実践と展望」**  
2024年施行の改正児童福祉法では、児童自立生活援助事業が都道府県等の義務的経費となるとともに、上限年齢が撤廃される等、大きな拡充が図られています。集合型の生活、アパートでの一人暮らし、両者のハイブリッド型等、形態や支援方法も多様です。同事業I型・II型の実践から、今後の展望や可能性を探ります。  
＜報告者＞東京都:目黒若葉寮 主任/自立支援コーディネーター 原谷 大樹 氏  
東京都:子供の家 ユースペースチーフ 斎藤 雄亮 氏  
神奈川県:自立援助ホームNEXT 関 茂樹 氏

**午後:「施設退所後の支援の課題や新たな取り組み・ツール」**  
退所後の相談援助は重要な課題ですが、施設間等で少なからず隔たりも見られます。すべての退所者が社会で孤立することのないよう、報告者の多様な経験や支援実践を報告いただき、あわせて新たな退所者等支援アプリ「きずなコネット」についても詳しく共有します。  
＜報告者＞愛知県:同朋大学 准教授 宮地 菜穂子 氏  
東京都:ぴあ応援団 菖蒲 瑠香 氏  
東京都:ケアリーバー 丹田 愛美 氏

第6分科会 『これからの家庭(的)養護』

**午前:「児童養護施設と里親の協働で築くアフターケアのあり方」**  
早稲田里親研究会には、里親だけでなく、社会的養護経験者、施設職員、研究者、議員、NPO 団体など多様な立場から参加しています。現在、子ども等のニーズをよりの確にキャッチするための「里親カタログ」の実現と、週末里親等の推進を図っています。社会から孤立しがちな子どもや若者が安心して過ごせる南湖ハウスの実践も報告します。  
＜報告者＞神奈川県:早稲田里親研究会 代表・南湖ハウス(ふらっと南湖) 代表 松本 素子 氏

**午後:「児童養護施設から、養育家庭への再委託を行った事例から学ぶ —養育に関わる人たちがライフストーリーワークを通じてつながり合うこと—」**  
里親支援専門相談員、ケア・心理職が中心となり、児童相談所、フォスタリング機関、乳児院、里親と連携し、本人が安心を確認しながら再委託した事例です。本人の育ちをつなぎ、養育者同士をつなぐため、LSW に取り組みました。本分科会では事例を題材に、養育家庭委託について情報共有を行い、支援のあり方を共に学び合います。  
＜報告者＞東京都:目黒若葉寮 里親支援専門相談員 甲斐 寿美子 氏  
ケアワーカー 矢野 詩織 氏  
治療指導担当職員 松下 大介 氏

第7分科会 『多機関連携と多職種連携』

午前：「児童自立支援施設との連携・協働」

児童自立支援施設は義務教育期の支援を基本としており、その後の進路や支援の受皿に大きな課題があります。東京都では、都立2施設、国立2施設の児童自立支援施設と児童養護施設・自立援助ホームとの懇談・情報交換を毎年行うなど、協働関係の構築を図っています。児童自立生活援助事業も活用し、児童養護施設等での受入拡大を進める必要があります。

<報告者>東京都：(前)萩山実務学校 自立支援課 統括課長代理 鈴木 康之 氏  
東京都：若草寮 施設長 加藤 雄輔 氏  
東京都：福音寮 児童自立支援施設提携型グループホーム 初山 泰也 氏

午後：「自己責任で若者が排除されない社会に向けた支援の実践と展望」

東京都が開設した、きみまも@歌舞伎町は「トー横」問題をはじめさまざまな悩みを抱える青少年・若者を対象とした総合相談窓口であり、居場所です。刑務所や少年院から出た若者の身元引受や就労支援を進める職親プロジェクト、新宿、渋谷、池袋を中心に繁華街等をさまよう若年女性を支援するBONDプロジェクトから、先端の取り組みを学びます。

<報告者>東京都：東京都民安全総合対策本部 総合推進部 都民安全課 統括課長代理 村田 陽次 氏  
埼玉県：日本財団職親プロジェクト/株式会社Saaave 代表取締役 星山 忠俊 氏  
東京都：特定非営利活動法人 BONDプロジェクト 代表/ルポライター 橘 ジュン 氏

第8分科会 『今後の社会的養護のあり方』

午前：「地域と共に子どもを育む」

地域交流センター「まんまる」は、地域に開放された子ども第三の居場所です。「つなげよう!地域の力!~ちょこっとつどう 憩いのわ」をコンセプトとして、地域とのつながりを広げ深める場を児童養護施設内に作りました。地域の子どもたちも利用できる遊び場や多世代が集う親子交流の場など、居場所づくりの取り組みを報告し、施設が地域の中で果たす役割を考えます。

<報告者>東京都：調布学園 まんまる(地域支援) 担当 山崎 栄子 氏

午後：「社会的養護の高機能化・多機能化のその先に」

養徳園は法改正に先んじて施設機能の拡充をしてきました。インケア、アフターケアの安定的な支援をベースに、児童家庭支援センターの併設、ショートステイ、虐待相談、子ども食堂、学童保育などを通して地域とつながる支援も積み重ねています。その歩みの先に見えてきた社会的養護の新たな役割とは。社会的養護のこれからを展望します。

<報告者>栃木県：社会福祉法人養徳園 理事長/総合施設長 福田 雅章 氏

■閉会 16:20~16:50

- ◇大会現地実行委員会報告
- ◇大会総評
- ◇次回開催地あいさつ



【参加費】 開催期間：6月20日(土)・6月21日(日) ※6月19日(金)プレ企画

参加形態・種別	参加費		年会費	6/19 プレ企画	6/20 夕食交流会費
	全日程(2日間通し)	1日のみ			
会 員	8,000円	4,000円	4,000円	1,000円	7,000円
一 般	12,000円	6,000円		1,000円	7,000円
学 生	3,000円	1,500円		1,000円	4,000円

※「会員」の方は、参加費に年会費を加えてお申し込みください(年会費には「社会的養護研究6号」の代金が含まれています)。  
※大会参加時に入会される方も、「会員」扱いとなります。申込書には「一般」と記載してお申し込みいただき、大会会期中に「会員受付」へ入会申込書を提出してください。  
※当日参加も歓迎します。ただし、定員に達した児童福祉講座・分科会への参加はお断りすることがあります。  
※6月20日の夕食交流会の当日受付はできませんので、期日までに申し込みください。  
※昼食は大会事務局で取り扱いませんので、各自でご用意ください。会場近辺に飲食店・コンビニ等がありますので、ご利用ください。

【参加申込方法】 5月22日(金)メ切

- ①全国児童養護問題研究会第53回全国大会参加申し込みフォーム(以下、申し込みフォーム)よりお申し込みください。その際、必ずメールアドレスが必要です。
- ②プレ企画参加費・参加費・年会費・夕食交流会費の合計額を5月29日(金)までに、下記口座へお振り込みください(現金書留での送金は受け付けておりません)。
- ③施設等の所属より複数名で参加される場合も、1名ずつ申し込みしてください。
- ④申し込みフォームからお申し込み後、正しく受付された場合には自動送信にて完了メールをお送りします。完了メールが到着しない場合は、正しく受付できておりません。入力されたメールアドレスを再度ご確認くださいとともに、迷惑フォルダ等もご確認ください。その他、ご不明な点は事務局までメールでお問い合わせください。
- ⑤児童福祉講座・分科会は、会場の定員によりご希望にそえない場合があります。必ず第2希望までご記入ください。

【問い合わせ先】

全国児童養護問題研究会 第53回全国大会 現地実行委員会事務局  
E-mail:youmonken.tokyotaikai@gmail.com

★キャンセル

- ・キャンセルは、メールにて、振込者名・所属をご記入の上、事務局まで送信してください。
- ・キャンセルの期日は、「プレ企画参加費」「参加費」「夕食交流会費」とも6月5日(金)までとさせていただきます。期日までにご連絡をいただいた場合、振込手数料を差し引いた金額を返金いたします。

【振込先】 ゆうちょ銀行【店番(店名)】〇一九 (019)  
【口座番号】 (種別)当座預金 0639283  
【ゆうちょ銀行からの送金】(記号・番号) 00110-9-639283  
【口座名称】 養問研全国大会(東京) ヨウモンケンゼンコクタイカイ(トウキョウ)

参加申し込みフォーム



参加申し込みフォームに  
アクセスしてください。

参加申し込みURL

<https://forms.gle/houMZgYZh7yWWPX9>